



白門板橋

2020. 3. 20 VOL.49

編集 中央大学学員会 東京板橋区支部
発行 〒173-0035 東京都板橋区大谷口 1-39-2 TEL03-3956-9054



目次

●表紙 新年会の写真 (2020年1月24日・板橋区 グリーンホール)	1
●大野正浩支部長・安井賢光幹事長の挨拶	2
●ニュース 箱根駅伝・ホームカミングデー・新入会員紹介	大野正浩・熊谷実那 3
●2020年新年会詳報	編集部 4
●2019年東京都区内支部連絡会総会ほか報告 (幹事・板橋区支部)	安井 賢光 5
●2019年板橋区支部・第31回定時総会報告書	編集部 6
●同上 (総会の詳報)・トピックス (スポーツ誌の取材を受けて)	佐藤 義 7
●同好会活動報告 (ゴルフ・囲碁・ボート・カラオケ)	各会長 8
●随想 趣味を生きる	秋山 健司 9
●随想 私のアフリカの思い出	川崎 力男 10
●追悼抄 (故川口・故小日向・故須田・故栗原さんをしのぶ)	平山 惟美・伊藤 潤 11
●地名の由来	中三川 孝幸 12

新しい年を迎えて

支部長 大野正浩



明けましておめでとうございます。板橋区支部の皆様には、健やかに令和の新しい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

本年も皆様にとりまして、平和で麗しい年でありますようお祈り申し上げます。

さて、正月といえば箱根駅伝ということになりますが、今年も総合12位という結果に終わりますが、肩を落としている方が多いと思います。しかしシード権獲得まで、今一步のところまで力をつけてきている印象を受けています。なお一層の奮起をお願いし、取りあえずシード権内の定着をお願いいたします。

2020年を迎え、早々にコロナウイルスがまん延し夏には東京オリンピックを控え、せわしない年になりそうです。

そのような中、恒例の「新春の集い」を1月24日（金）24人の参加を得て開催しました。

一昨年は「当支部は若手会員と女性会員を大切にします」と掲げましたが、徐々にその兆しが出てまいりました。今年の新春の集いには、紅一点・畑井有里枝さん（平成11年法卒）の初参加があり、大変活気のある新年会になりました。また、昨年12月1日の白門レガッタには、新会員の熊谷実那さん（平成28年法卒）が、混成チームの一員として、はつらつとデビューしました。

お二人には、支部の行事、同好会の催し等にできるだけ参加をお願いし、支部活動に協力いただければと期待しております。支部会員の皆様にも一丸となって、活気のある支部再生を目指していただければ、より素晴らしい会になると思います。

井上ひさしさんの言葉に『むずかしいことはやさしく、やさしいことはふかく、ふかいことはおもしろく、おもしろいことはまじめに、まじめなことはゆかいに、ゆかいなことはあくまでゆかいに』（註）というのがありますが、今年はこの言葉を私のモットーとして、支部の益々の発展と会員皆様と明るく楽しく過ごせる一年になりますようご協力をお願い申し上げます。

（編集部注：井上ひさしさんの言葉として有名）

新年度への要望

幹事長 安井賢光



皆様、本年もよろしく願います。

去る1月24日（金）、板橋白門会の新年会が開催されましたが、参加者が20数名と誠に寂しい限りでありました。

開催日が金曜日に変更になったせいもあるかと思いますが、もっと参加者が多く盛大な会合にしなければと痛感したところでもあります。

言い訳になりますが、翌日25日（土）は、小生が支部長を務めております年次支部（47白門会）の新年会があり、大野支部長のご配慮により、日程変更となったものであります。

ただ当日、出席者が少ないにもかかわらず、大いに盛り上がったことがあります。それは、平成11年卒の畑井有里枝さん（弁護士）の参加でした。久々の紅一点ということもあり、会をにぎやかにしていただきました。二次会までお付き合いいただき、ありがとうございました。やはり、若い方々、女性の方々の参加が重要であるということでもあります。

私も、大野支部長のお役に立たなければ、また、令和元年の都区内支部連絡会の担当を乗り切らなければと、幹事長を担ってまいりましたが、二足の草鞋を履いているのは、さまざまな支障があり、難しいと痛感しております。都区内支部連絡会の幹事も、今年は目黒区支部に引き継ぐことになりましたので、この際に当支部の幹事長の職を辞したいと思っております。

この点については、今年度の総会に向けて、役員会等で検討していただきたいと思っております。

また、事務局長の問題もあります。昨年就任いただいた松島さんが、仕事が忙しくなり、辞任されて以来、空席となっております。会の運営に支障をきたしております。どなたかにお引き受けいただかないと、板橋白門会は動かなくなります。

いろいろ愚痴めいたことを申し上げましたが、これが当支部の現状です。皆様のご奮起、ご協力、よろしくお願いいたします。

母校のページ

箱根駅伝 残念！

正月行事の箱根駅伝は、ここ数年、前年の10月の予選会から始まる状態が続いています。

中央大学といえば「箱根駅伝の王者」と心に刷り込まれている私としては、あの栄光をもう一度という気持ちが大変強いのです。

毎年、正月3日に大混雑の中、応援団が陣取る大手町の場所に向かいます。

今年も大村理事長、酒井総長、福原学長をはじめ、大勢の大学関係者、箱根駅伝を愛する学会会の人々、現役の学生たちで応援席は和やかな雰囲気の中、緊張感も満ち溢れていました。

大歓声の中、他校の選手がどんどん目の前を通過してゴールしていきます。中大の選手は・・・。

わが母校の結果は、総合12位に終わりましたが、最後まで歯を食いしばり真剣に走る選手、最初から最後まで手を抜かず全精力を投入する応援団員には頭が下がる思いでした。

報告会で12位だが、中大記録を更新との発表があり「本当か」と疑いました。

他校は、10区間中、7区間で区間新記録が出たように、どんどん進化しています。

選手たちの悔しさを糧に進歩、躍進を期待します。今年10月の予選会には、必ず足を運ぶ予定です。

健闘を祈ります。 (大野正浩)

ホームカミングデー

2019年のホームカミングデーは、9月29日（日）初めて後楽園キャンパスで開催されました。

会場が近いということで、支部を挙げて参加しようという意気込んでいましたが、内容が明らかになるに従い、中央広場なし、模擬店なしと分ってくるとダメージが大きくなり、不参加者が増えてきました。

当日の午後、会場に着いたのが早すぎたのか閑散とした雰囲気でした。

仲間の誰が何処にいるのか分からず、不安な気持ちで会場に入っていました。

座談会の「母校中央大学我が人生の誇り」や「オリ・パラを目指す青春の輝き」を拝聴しました。

先輩、後輩、知人もあまり来ていないようで、数人と言葉を交わした程度で終わってしまいました。

やはり、開会式の前にテーブルを確保し、式典後、仲間たちとテーブルを囲み、模擬店から仕入れた飲み物、食べ物を肴にして談笑したいものです。

夜の懇親会には出席できなかったもので、偉そうなことは言えませんが、次回は再び多摩キャンパスに戻すと漏れ聞いております。

活気あるホームカミングデーになることを期待しております。

(大野正浩)

支部のページ

新人会員

熊谷実那さん ようこそ、当支部へ。
久しぶりに女性会員のご入会、大歓迎！

[自己紹介]

はじめまして。
2016年度卒業の熊谷実那と申します。

法学部政治学科を専攻しておりました。

現在は、株式会社キャリアデザインセンターと

いう会社で、「type」、「女の転職type」という転職サイトの、企業様向けの営業をしています。

大学時代は、学校のゼミやサークルに所属しておらず、アルバイトに明け暮れておりました。

最近はその反動で、いろいろな活動をしたと思います。料理教室やダンス教室、スポーツジム、プロレス鑑賞など幅広く楽しみをみつめています。

先日は白門レガッタにも参加させていただき、初めての経験でしたのでとても面白かったです。

出身は岐阜県で、大学時代は百草園に住んでおりました。板橋には、三年前に引っ越してきたのですが、まだまだ板橋区内で行ったことのない場所がたくさんあるので、これからどんどん板橋について知っていきたいです。板橋近辺の美味しいお店や、面白い場所などご存じでしたら、会合などでお会いした際に、教えていただけるととても嬉しいです。

これからどうぞよろしくお願いたします。

(自己紹介：文・写真とも 熊谷実那)



観桜会中止のお知らせ

今年の観桜会幹事・中三川孝幸さんが、張り切って計画を立てた観桜会は、中止になりました。

コロナウイルスは、いまだに世界中で広がり続けており、現時点において、治療に効果のあるワクチンや治療薬が見つからない状況です。

観桜会の中止は初めてではなく、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の時も、同じように中止した例があります。

お花見は、心に余裕があってこそ楽しめる行事であり、感染を気にしながら桜を眺めても、お酒を飲んでも楽しくありません。

一日も早く、検査キットの確立や治療薬の発見を念願するばかりです。

(編集部)

新年会は大盛会

寒中ではありますが、2020年1月24日（金）はわりあい暖かく穏やかな日で、午後6時、板橋区グリーンホールに24人の支部員が集合し、令和2年の新年会が開かれました。



初めに司会を担当した安井賢光幹事長（左の写真）の指示に従い、全員そろっての記念写真を撮影、この写真は表紙を飾りました。

続いて大野正浩支部長の挨拶で、新年の抱負が語られました。総会などの会議とは違って、懇親会ですから、最初からなんとなくリラックスモードです。（下の写真）



宴会に入り、乾杯の音頭は、本日出席者の最年長者、大久保隆輔さん（昭和28年卒）。

先輩は、大学の財産です。

先輩のお元気な姿を見ると後輩も元気が湧いてきます。大久保さんは美声の持ち主で歌もたいへん上手です。（右の写真）



この数年間、当支部では女性会員の会合への出席が、なぜかほとんどありませんでした。それはとてもつらいことでした。しかし、本日は久しぶりに女性会員の出席がありました。畑井有里枝さん（平成11年卒）です。早速、紹介させていただきました。（下の写真）



会場は春の花が咲いたような雰囲気になり、会員の顔が喜びであふれておりました。若い会員の参加ほど、嬉しいことはありません。

お酒は、ビール・ワイン・日本酒・焼酎などですが、日本酒は、銘柄の違う一升瓶が二本並んでいました。

高級居酒屋で飲んでいるような気分です。

食べ物も豊富で、次から次へと出てきました。

宴会場の全てのテーブルを紹介することは、無理なので、雰囲気のある写真を1枚掲載します。



いつも区民祭りに自宅の車庫を提供してくださる伊藤元太郎さんをご紹介します。（写真右が伊藤さん、左は深山さん）

大いに食べ、お酒も飲んで満足し、その後は恒例の中大賛歌（校歌・応援歌・惜別の歌の三つの歌）。

音頭はいつも中三川孝幸さんで、学生時代から空手と音楽が大好きな会員です。



中締めは、当支部の重鎮、深山 宏副支部長。



最後に全員にお土産（大学名入りの湯呑茶碗）が配られ、盛り上がったすばらしい宴がお開きとなり、今年も頑張るぞという気力が湧いてくる素晴らしい新年会でした。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

今宵は寒中とはいえ、少し暖かでした。二次会のカラオケには、10人の会員が参加しました。

ひとり2曲のカラオケを歌って、約2時間、酔いを醒ますのにはちょうど良い時間です。それぞれが得意な歌を披露しますので、大いに盛り上がりました。もちろんカラオケは歌が中心で、居酒屋ではありませんから、飲み足りないご仁は、更に三次会へ・・・三次会、それにしてもお元気ですね。

こうして楽しい夜は静かに更けていきました。

（編集部）

都区内支部連絡会(定期総会ほか)報告

去る、令和元年11月2日(土)午後4時から、板橋区立文化会館大会議室において、第24回都区内支部連絡会の定期総会・講演会・懇親会が開催されました。

担当が第24期幹事支部である東京板橋区支部ということで、私たち執行部は、7月の幹事会から、様々な準備を進めてきたところでありました。

いろいろ大変でありましたが、ようやく当日を迎えることができました。

当日は、ご来賓も含め50数名のご参加をいただき、まずは盛況だったと思います。

私の司会の元で始まった総会におきましては、はじめに大野正浩板橋区支部長の代表幹事挨拶があり、母校中央大学硬式野球部の30季ぶりの優勝や、箱根駅伝の予選会でのぎりぎりの通過などのお話がありました。



続いて大木田守中央大学学員会副会長からは、後楽園キャンパスに場所を移してのホームカミングデーの紹介などのお話がありました。



次に林勘市中央大学常任理事から、大学の現状、将来への動向などが紹介されるご挨拶がありました。



次いで、総会の議事に入り、大野議長の進行により、第1号議案(平成30年度事業報告)、第2号議案(平成30年度会計報告)、第3号議案(令和元年度事業計画案)、第4号議案(令和元年度予算案)が承認されました。

次に、次期幹事支部候補について議題となり、満場一致で、東京都目黒区支部が次期幹事支部と決定いたしました。以上で総会は無事終了しました。

次に、講演会ということですが、私たち板橋区支部としては、会員でもある落語家 真打 春風亭三朝師匠のお断が一番ということをお願いをいたしました。快くお引き受けいただき、たっぷりとお楽しみさせていただきました。



まず初めに現在の小話から入り、子供を相手に話す落語の難しさを語り、続いて古典落語で三朝師匠の十八番「妾馬」を身振り手振りで熱演しました。

講演会が終わり、いよいよ懇親会です。大野支部長の開宴のあいさつの後、深山板橋区支部副支部長の乾杯により、懇談に移りました。



しばらくご歓談いただいたのち後半に入り、出席の各支部より、出席者の自己紹介などがあり、最後に次期幹事支部の目黒区支部長の岡田匡令氏より、次回への決意が述べられ、閉会の言葉となりました。



最後に、板橋区支部の中三川氏のリードで、校歌、惜別の歌の斉唱でお開きとなりました。



当日は、板橋区支部の大勢の常任幹事の方にお手伝いいただきました。皆様、誠にありがとうございました。

後は、目黒区支部への引継ぎ事務が残っており、まだ終わりではありませんが、少し先は見えてきたかなというところです。とにかく大変な一年でした。

(幹事長 安井賢光)

定時総会報告書

開催日/令和元年6月8日(土)
会場/板橋区立文化会館



第31回定時総会が、司会安井幹事長(写真・左)、議長大野支部長(写真・右)のもとに実施されましたので、報告いたします。



■第1号議案

平成30年度事業報告の件
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

- 松島事務局長から報告があり、異議なく承認された。
- 3月29日 ゴルフ同好会(年2回開催) 延49名
 - 4月8日 囲碁同好会(年12回開催) 延100名
 - 5月19日 カラオケ同好会(年2回開催) 延36名
 - 4月1日 観桜会・石神井川の桜(大山・大谷口) 34名
 - 4月2日 幹事会打合せ 深山事務所 5名
 - 4月12日 30周年事業打合せ 深山事務所 7名
 - 4月16日 幹事会 グリーンホール504号室 21名
 - 5月2日 30周年事業打合せ 深山事務所 6名
 - 6月5日 30周年事業打合せ メトロポリタン 7名
 - 6月12日 30周年事業打合せ 深山事務所 6名
 - 6月25日 30周年事業・総会準備 深山事務所 6名
 - 6月30日 定時総会・30周年行事 メトロポリタン 70名
 - 7月24日 都区内支部連絡会幹事会 駿河台記念館 4名
 - 9月18日 会報「白門板橋」編集会議 ルノアール 8名
 - 9月28日 常任幹事会 グリーンホール101号室 16名
 - 10月7日 ホームカミングデー 多摩キャンパス 12名
 - 10月20日～21日 区民祭り参加 延25名
 - 11月7日 都区内支部連絡会総会練馬区産業プラザ 4名
 - 12月9日 白門レガッタ参加 戸田ボート場 8名
 - 1月26日 新年会 文化会館大会議室 36名

■第2号議案

平成30年度収支決算報告並びに監査報告の件
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

下表のとおり、前年度の収支決算書(収入・支出の部)の説明が小宮会計幹事からあり、引き続き監査報告が矢口監事により行われ、満場これに異議なく、拍手をもって承認可決された。

平成30年度収支決算書			平成30年度収支決算書		
自平成30年4月1日 至 平成31年3月31日			自平成30年4月1日 至 平成31年3月31日		
収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
年会費	450,000	331,000	総会費	1,170,000	1,077,364
総会費	600,000	490,000	役員会費	50,000	35,038
役員会費	50,000	39,000	常任幹事会費	100,000	25,920
常任幹事会費	100,000	34,000	幹事会費	80,000	34,020
幹事会費	80,000	42,000	新年会費	420,000	162,300
会員増強	0	0	観桜会費	200,000	83,771
新年会費	420,000	210,000	旅行会費	200,000	0
観桜会費	200,000	110,000	研修会費	0	0
旅行会費	200,000	0	種活動補助	30,000	3,000
標準寄付	600,000	604,000	同好会補助	20,000	20,000
種活動拠出収入	0	0	会員増強費	20,000	0
寄付	0	196,000	中央大学助成費	20,000	20,000
中大補助	50,000	200,000	会報作成費	300,000	342,900
中大訪問	0	0	施設使用費	100,000	53,290
受取利息	0	1	印刷費	50,000	17,770
雑収入	230,000	18,020	ネット管理費	10,000	0
広告収入	100,000	50,000	通信費	120,000	105,671
			慶弔費交際費	100,000	99,000
			消耗品費	20,000	15,702
			支払手数料	20,000	17,966
			移外費	20,000	21,000
			雑費	0	0
計	3,080,000	2,324,021	平成費	30,000	30,000
			予備費	478,752	0
前年度繰越金	478,752	478,752			2,164,712
合計	3,558,752	2,802,773	繰越金		638,061
			合計	3,558,752	2,802,773

平成30年度 貸借対照表
平成31年3月31日現在

資産の部		負債・剰余金の部	
科目	金額	科目	金額
現金	175,578	長期借入金	0
短期借入金	55,355	正味財産	638,061
固定資産	2,849,289		
流動資産	174,933		
総資産合計	3,059,155		
負債合計	0		
計	3,059,155	計	638,061

上記の通りご報告いたします。
令和元年6月8日
中央大学学員会 東京板橋支部 議長 大野 正尚
会計担当 小宮 仁

監査報告書

監事2人は板橋区支部の平成30年度会計について監査の結果、決算及び関係書類の会計処理は適正に行われており、決算書は適正であることを認めます。

令和元年6月8日
中央大学学員会 東京板橋支部 監事 本田 紀之
同 谷口 博志

■第3号議案

令和元年度事業計画(案)
(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

- 松島事務局長から次の事業計画(案)の説明があり、満場異議なく、拍手をもって承認可決された。
- 1・定時総会 6月8日(土)13時 文化会館
 - 2・親睦会開催(観桜会、旅行会、忘年会、新年会)
 - 3・他支部との交流(都区内支部連絡会など)
 - 7月17日(水)都区内支部幹事会 駿河台記念館
 - 11月2日(土)総会(当支部が当番)文化会館
 - 4・同好会活動の促進
(囲碁・ゴルフ・カラオケ・ボートの各同好会)
 - 5・広報活動
会報「白門板橋」の発行 年1回
ホームページの更新
 - 6・会員増強活動
A 区民祭りに支部として参加
B ブロックごとに会員増強に努める
 - 7・ホームカミングデー参加 9月29日(日)

■第4号議案

令和元年度収支予算（案）の件
（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

次表のとおり、新年度の収支予算（案）の説明が小宮会計幹事からあり、承認可決された。

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
年会費収入	3,000×150名	450,000	総会費	7,000×70名	490,000
総会費収入	7,000×70名	490,000			
諸事業費収入	新年会	350,000	諸事業費	新年会	350,000
	総研会	200,000		総研会	200,000
	旅行会	200,000		旅行会	200,000
会費収入	役員会	50,000	会費	役員会	50,000
	常任幹事会	100,000		常任幹事会	100,000
	幹事会	80,000		幹事会	80,000
中央大学補助	中央活動補助金	70,000	増進活動		10,000
			平成会		30,000
寄付収入	事業・校 寄付金	50,000	中大訪問費	ホームカミング	20,000
受取利息	預金	0	同好会補助	4同好会補助	20,000
雑収入		50,000	活動補助費	会費・雑費事務	10,000
広告収入		50,000	慶弔交際費	会員・交際団体	100,000
			施設使用費	会場費用・付帯費	100,000
			会報作成費	年1～2回発行	150,000
			印刷費	各種案内	30,000
			事務消耗品費	用紙・インク等	20,000
			通信費	郵便料	120,000
			ネット関連費	ホームページ制作	10,000
			支払手数料	会費振込・他	20,000
			渉外費		30,000
			雑費		0
			収入計	支出計	2,140,000
前年繰越金		638,061	予備費		638,061
合計		2,778,061	合計		2,778,061

総会終了後、懇親会に入り、ご臨席の学員会本部の石塚康夫副会長よりご挨拶をいただき、祝宴となりました。



最後に恒例の校歌、応援歌、惜別の歌を合唱し、無事、第31回定時総会は終了しました。



トピックス

2020東京オリンピックに関連し
日刊スポーツ社から取材を受けて！

佐藤 義（昭和32年卒）

昨年12月11日に日刊スポーツ社より2020オリンピックに関しての取材があり、2019年12月18日発行の北海道日刊スポーツ誌に『増毛レスリング王国』の見出しで、大々的に掲載された。

私が、母校の北海道増毛高校二年の時、増毛町出身で中大レスリング部の創設者で初代主将の松江喜久弥先輩の指導を受け、小学校からの朋友池田とレスリングを始めた。

屋内運動場の隅に柔道の畳を敷き、海水パンツ一つでシューズなども無く、はだしでタックルやブリッジなどの訓練を積み、体中傷だらけになり家族からはすぐにでも止めると何度もいわれた。

師匠の松江は、終戦後初のオリンピック・ヘルシンキのレスリングバンタム級で選手団ただ一人の金メダリストとなった当時の監督石井庄八の育ての親といわれた。

最初に全国大会に出場したのは、高校二年の夏、千葉県船橋で開催された第二回全国高校レスリング選手権大会だった。

松江先輩にマットに上がる時、膝が震えるゾといわれ本当に震えたのを覚えている。

国民体育大会には第6回広島大会から第7回四国・第8回東北大会と北海道代表で出場し、私と池田の二人だった部員も次第に増え、第9回は地元の北海道大会で国体役員とレフリー・ジャッジの審判員を兼ねて参加した。

中大レスリング部に入って学生新人戦で優勝してから、常にレギュラーでポイントゲッターとなり、当時の各大学のリーグ戦ではほとんど我が中大が優勝した。

昭和31年のメルボルン五輪の出場候補選手に選抜され、当時のレスリング協会の八田一朗会長の許で強化合宿に参加した。

五輪予選を兼ねた全日本選手権では優勝できず出場は叶わなかったが、中大から池田・笹原・桂本・浅井がメルボルンに出場し、池田と笹原は金メダルを獲得し、浅井と桂本はともに入賞した。

日刊スポーツの調査で北海道では夏季五輪には過去31回で計109人の道産子選手が出場、出身市町村別調査によると増毛町は56年メルボルン大会金メダルの池田三男らレスリングで4人輩出し、現在の人口比では増毛町が全国でトップという。

Wikipediaには私と池田の記事が掲載されていますが、詳しく知りたいとこのことで取材があったと思われる。

青春時代の苦しくとも良き思い出がよみがえった思いである。

同好会活動報告

ゴルフ同好会

平成最後のゴルフ会は、3月29日に高坂CCで20名の参加者で行われました。

年2回の開催を基本として多くのゴルフ好きの先輩方が築いてきたゴルフ会ですが、板橋支部の会員だけでなく、他支部のゴルフ好きの人たちにも門戸を開き行っております。故三宅さんのつながりから輪が開きました。

春の例会は、桜の満開の中で絶好のコンディションとはいえ、コースは距離も長く、グリーンは難しく、スコアをまとめることが出来ません。それでもパーティでそれぞれ今日一番のナイスショットを自慢して話すことの楽しみは、かけがえのない思い出になります。

令和元年最初のゴルフ会は、10月25日に高根CCで開催を予定しましたが、参加者も16名がエントリーして楽しみにしておりましたが、この日は台風の影響で残念ながら中止といたしました。コース付近では川の氾濫など被害が甚大で、今後の気象状況の変化が想像できるようでした。

令和2年の春季ゴルフ会は、3月26日に高坂CCで開催予定です。この「白門板橋」が届くころには、結果がでていられるかもしれませんが、秋季ゴルフ会も9月頃に予定しますので、ゴルフ好きな方の参加をお待ち申し上げます。
(会長 深山 宏)



ボート同好会

大学スポーツの箱根駅伝、硬式野球やラグビーなど母校中央大学のエンブレムを着けて打ち込む学生の姿は、感動と勇気を貰います。思わず応援したくなります。学生の心に戻って運動しませんか？

応援される側に行くと想像してみてください。

初めてボートに足を乗せた時の緊張感は忘れられませんが、なぜか開放感のほうが大きく嬉しさが湧いてきました。水面からの景色を楽しみながら、戸田ボートコースでナックルフォアに乗っています。

(会長 小宮 仁)



囲碁同好会

今年で設立30年になります。90歳代の石塚さん、設立時からの会員・松山さん、皆70歳以上、20名ほどの会員が、楽しく対局をしております。

- ① 定例会 毎月第2日曜日 13時から
会場 池袋囲碁サロン (池袋駅東口2分)
Tel 03-3984-9235
会費 年会費 1,000円
当日会費 300円 入場料 700円
表彰 毎月、勝率で優勝・準優勝を表彰
- ② 他支部等交流戦
9月 白門練馬支部と懇親囲碁大会
10月 白門中野支部と懇親囲碁大会
11月 板橋区囲碁大会
- ③ 新入会員、大歓迎。
布施まで連絡下さい。
Tel (携帯) 080-5466-1611
(会長 布施二郎)



カラオケ同好会

会員の親睦と健康の維持・増進を目的に、年2回(春・秋)の活動を行っています。

歌を歌ったことのない人は、一人もいないでしょう。年齢に関係なく、どなたでも手軽に楽しく参加できます。

カラオケをすることは、ストレスの発散、誤嚥防止、血流改善、脳の活性化などなど、メリットがたくさんあります。

ご参加いただいたあなたにとっての、楽しいひと時を保証します。どうぞ皆様のご参加をお待ち申し上げます。
(会長 小林健一)



(「白門板橋」1990年1月26日発行の第2号には、<ボートを愛する会><囲碁会><ゴルフ会>の記事が、また1993年7月30日発行の第5号には<カラオケクラブの結成>のことが載っています。設立当時からあった、こういったサークル活動が、いかに会員の憩いの場であったことかを如実に語っています。編集部)

随想

私のアフリカ旅行の思い出

川崎力男（昭和51年卒）

昨年11月1500mのアブラハム選手ほか東京オリンピック・パラリンピック出場を目指す南スーダン選手団が来日しました。

同国は長きに渡る内戦の末、2011年にスーダンから独立した世界で一番若い国です。しかし、独立後も国内の政治勢力や民族間の衝突が続き、スポーツにかけると予算もないこの国では、オリンピックに出るだけでも大変なこと。練習環境などは脆弱（ぜいじゃく）で厳しい状況です。

この度、前橋市がそんな南スーダンの東京オリンピックのホストタウンとして名乗りを上げ、長期事前キャンプのサポートを協力してくれることになりました。素晴らしいことだと嬉しくなりました。ただ、テレビの映像を見た時、オヤッと思いました。少し笑顔が少ない気がするのです。

母国の家族友人のことを思うと自分だけ笑ってもいられないのでしょう。（㊟1）

30年ほど前、ケニヤに動物サファリーの添乗で行った時の話です。

ジャンプで有名なマサイ族の村にあるマサイ・マラ国立公園。宿泊はサッチャー元首相も愛用した英国式サファリー・リゾートのキーコロック・ロッジ。

ツアーも終盤になると、周りは黒人ばかりで、言葉は英語、見るのは数々の猛獣、どこにいるのか分からないので悪路を走りっぱなしの連続、ほとんどの人はかなり疲れている。

サファリゲーム後、お客様をシャワータイム休憩時間でくつろがせると、私の別の仕事が始まる。

ここで日本食を食べさせて元気をつけてあげたい。日本からこの日のために持ってきたセブン-イレブンのおでん缶を準備して、シェフをお願いに行く。

「お客様が疲れているので、おでんという日本料理を出してくれないか。一人ずつ温めて配って欲しい」

身長190cmくらいのハンサムなマサイ系のシェフが、「缶の中身は何だ？調理師資格は持っているのか？衛生上問題ないのか？大丈夫だという証書はあるのか？」と矢継ぎ早に質問してくる。

「私たちは自信のある料理を出している。訳の分からないものは衛生上ダメだし、忙しいから無理だね」笑顔もなく態度も偉そうである。

ダメだと言われると余計準備してあげたい。せっかく日本から重い思いをして持ってきたものを何もしないで持って帰ったら悔しい。気を取り直して再交渉。

「遠路はるばる日本という地球の裏側からやってきた仲間が、環境の違いに疲れ果てている。懐かしい日本の味をこの地で一口食べたら、明日はもっと元気になってマサイことをさらに好きになると思わないか？

おでんを温めたら、あなた達がまず試食してくれ」

「分かった、分かった。おでんを持ってきなさい」と黒い顔に白い歯と赤い口内を見せてにっこり笑う。前歯の白い歯は真ん中に2mmくらいの隙間がある。マサイの人は、熱病で歯をくいしばっても薬を飲ませられるように子供のころに隙間を作ってるそうだ。

それから厨房ではコックが集まり、ちょっとした騒ぎになった。

「玉子はアフリカにあるが、昆布はない。つみれはあるが、がんもはない」などなど。作り方、配り方を支持しお客様をテーブルに案内する。メインデッシュの前にボーイが要領よくおでんを配ってくれる。スープ皿に汁とおでんを二個ずつ辛子袋と箸を添えてある。

お客様がげげんな顔をしていたので「これはスペシャルマサイ料理です」と冗談交じりに案内したが、口にしておでんだとわかり喜んでくれた。

メインが終わり突然レストランの照明が消えた。

厨房の扉が開くと、先ほどまで玄関にいたマサイ族の戦士を先頭に角笛を吹きながら行進を始める。松明を掲げる厨房服の4人、キャンドルの灯ったケーキを持つコック、最後に5～6人の山高帽が繋がり、フライパンや鍋、ひしゃくなどをドンチャン、ドンチャン鳴らし練り歩く。

みんなで何だろうと不思議に思っていると、我々のテーブルを取り囲みケーキを私の前に置いた。そしてマサイの戦士が「リッキーオ ウエルカム ツウケニア フロム ユア フレンドオブ キーコ・ロッジ」と大声で歓迎してくれた。見ればケーキにも同じ文句が書いてあった。

厨房で一度断られたがめげず、押し問答をした結果、理解し、協力してくれ、そして友人になった。そのおかげであれだけのホスピタリティーを示してくれたことに感激した。

アフリカの人は肌の色が黒くて緊張していると目つきが怖く見える。一見笑顔も少ないが実際話してみると純真で明るく親切な人が多い。（㊟2）

前橋市で合宿練習しているアブラハム選手ほか南スーダンの選手が東京オリンピック・パラリンピックで活躍し、自国の多くの人に感動を与え、若者や子供が夢を持つようになって欲しい。（㊟3）

* * * *

（編集部 ㊟）

㊟1：南スーダンは、それまでのスーダン共和国の南部が独立して、南スーダン共和国になった新国家である。

㊟2：マサイ族は、南スーダン共和国の更に南に位置するケニア共和国の民族で、冒頭と文末に記載のある南スーダン共和国の選手とは、所属する国家は異なる。

㊟3：筆者は元旅行会社の経営者で、㊟1・2を十分認識した上で、若き頃に訪れたアフリカの思い出として記述したものである。

追悼抄

支部に宴会場を提供し続けた
高級割烹店経営者・川口 正氏

(相談役 昭和37年理工卒)
平成30年11月30日ご逝去 81歳

大学卒業後、服部時計店に勤務し、昭和44年、蓮根に高級割烹店「よし邑」を設立して、経営に携わる。

一方、東京飲食業衛生組合、板橋法人会、全国法人連合会、志村防犯協会の役員を歴任し、その功績により平成22年春の叙勲で「旭日双光章」を授与された。

8年ほど前、それまでの割烹店を日本料理高級レストランに建て直した際、経営をご子息に譲られたが、その後も、長年にわたり、支部が催す新年会、観桜会、忘年会などの宴会場として、「よし邑」を提供してくださった。

偉ぶらず、気さくな穏やかな人柄で、常にこやかに支部員に接し、支部の旅行にも参加された。

ここ数年は体調を崩されていたが、宴会場のほうは、従来通り、ご提供くださった。

ご冥福をお祈り申し上げます。(伊藤 潤 記)

気遣いとバランス感覚に秀でた
小日向孝介氏の訃報に接して

(顧問・元支部長 昭和29年法卒)
平成31年1月29日ご逝去 89歳

平成8年6月に開催された支部総会で、役員改選の議案があったが、支部長候補者が多かったせいかまとまらず、緊急動議があって後日の幹事会に一任することで保留された。

2か月後、幹事会で選任された人は、会計監事だった小日向孝介氏である。4人の副支部長をゴボウ抜きにして一気に3代目の支部長に就任した。

大学卒業後、浦和家庭裁判所、王子運送株式会社を経て、仕事の傍ら司法書士のライセンスを取得して事務所を開く。併せて民生委員や大学講師を務める等精力的に活動した。

官庁や民間の大手企業に勤務したことで、あらゆる階層の人々と交流し、人間関係と組織で仕事をする事の難しさを体験し、バランス感覚を身につけたことが人望を高め、支部のトップに担ぎ上げられたゆえんだと思う。そして、板橋区長を勇退して当支部の顧問だった石塚輝雄氏にバトンを渡すまでの6期12年間の長期にわたり、支部運営の舵取りをされ、大きな功績を遺した。

私人としても小日向さんは、毎土曜日の午後、高島平の喫茶店イヴに有志が集って開く“ダベリの会”にも親しく参加して、楽しい話の輪に入っていったと聞く。新年会に始まる支部の行事には、ことごとく皆勤され、趣味に申告していた旅行では、余興のカラオケまで積極的につき合い、

座を盛り上げてくれた。

6期目の支部長統投が決まった時、岩澤忠弘氏(故人)と一緒に副支部長に就任要請があり、以後縁が深くなったが、支部長勇退後はお互いに疎遠になり、十分恩に報いることができないままお別れする仕儀となり、たいへん残念でならない。祈冥福。(平山惟美 記)

公私にわたり支部を支えた
須田幸男氏の死を悼む

(相談役 昭和34年法卒)
令和元年6月2日 ご逝去

支部創立の発起人76名の中に名を連ねた須田さんは、支部会員の生え抜きとして発足の時から亡くなるまで、公私で支部を支えてくれた。

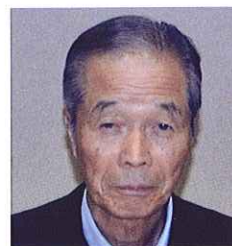
学生時代モータリゼーションという流行語を生んだ自動車部で活躍し、青春を存分謳歌した須田さんは、就職氷河期だった昭和34年卒業と同時に就職した先は、家業の郵便局だった。

いわゆる特定郵便局で、素封家の御曹子でありながらも世襲の局長の椅子を地道な努力で引継ぎ、自らも永年郵便を通して地域の発展に貢献した。また町会長としても地域に密着した活性化に奔走した。

そして支部会報の発行に際しては、発送作業全般から郵便料金を立替えるまで心配りしてくれた。

今号の発送では、悲しみが一段と増すに違いない。

(平山惟美 記)

支部員に真心をもって接した
栗原三郎氏の功績

(前監事 昭和35年商卒)
令和2年1月29日ご逝去 84歳

昭和35年商学部を卒業後、母校職員に採用され、理事長室、資金、経理部畑を歩き、平成6年学員会本部事務局長を歴任。当支部設立の際には、最初から指導を行い、支部の会計を担当した。

たいへん真面目な性格で、母校の職員だけあって、支部内で一番卒業生を慈しんだ方であった。

平成11年の支部規約改訂時には、改訂委員長を務め、法務に詳しい委員の中心になって作業を進めた。

イヴの会の常連でもあり、政治、経済に詳しく、またゴルフも得意で、支部のゴルフ大会で優勝を果たしたこともあった。偉ぶらずおごらず、常に紳士として振る舞い、中大卒業生の模範を具現した人であった。

訃報を聞いて悲嘆にくれ、涙が止まらない。

亡くなられてその真心を改めて認識し、喪失感の思い大きく、ここに心から哀悼の意を表します。

(伊藤 潤 記)

地名の由来…③⑨

「大原」の巻

大原町

大原町という町名は、大原町40番にある長徳寺に大日如来が祀られていて、大日堂がありました。

昭和20年に焼失するまであった大日堂の南前の地を大日前、東側の地域を大日後といっていました。この大日の大という字と小字名西原の原という字をとって大原としたようです。

西原とは中山道の西側にある原っぱということで、そう呼ばれていたようです。

長徳寺

長徳寺は真言宗豊山派の寺院で、創建年代は不詳ですが、建久年間（1190～1199年）と推定されています。

前述した大日如来像は運慶作と伝えられていて「子育て大日尊」「乳授け大日さま」と呼ばれ、乳の出ない母親が住職に祈願してもらい、寺の井戸の水で炊いたご飯を食べると乳が出るとされていました。現在、長徳寺にある阿弥陀如来立像は、もとは平泉中尊寺蔵で、平安時代後期頃の製作とされています。

平成5年2月26日に板橋区指定有形文化財となり、口元に笑みをたたえた穏やかな表情は、当時の様式を探るうえでも貴重な仏像といえます。

その他にも、長徳寺には弘法大師像、六道絵図などが安置され、大日如来、釈迦如来などの石仏が残っています。

また民俗資料として貴重な力石が五個ほどあります。表面に重さが刻まれた卵形のもので、縁日には人が集まり、力石をかつぎ、大日堂のまわりを何周も回り力自慢をしたといえます。



力石

真言宗豊山派

真言宗豊山派は、奈良県桜井市初瀬にある総本山長谷寺の山号の豊山をいただき豊山派といえます。

この宗派は全国に約3000寺、僧侶数は約5000人、檀信徒数は約200万人とされています。

源氏物語や枕草子などにもでてくる総本山長谷寺や東京の大本山護国寺、また西新井大師（総持寺）は豊山派の象徴ともいえる寺です。

真言宗は皆様ご存じのとおり空海が開いた宗派であり、空海と弘法大師は同一人物です。四国八十八ヶ所巡りが有名ですが、これは空海が修行した道のりを巡る聖地巡礼なのです。普通お遍路さんは、すべての札所で本堂と大師堂をお参りします。八十八ヶ所すべて

の札所に弘法大師が祭られています。

空海という名前は空海自身が考えた名前です。空海が仏教に興味を持ち真理を求めていたときに室戸岬の洞窟で悟りを得て、その時目にした景色が空と海だけだったので空海と名前をつけたということです。空海22歳の時でした。弘法大師という名前は、天皇から賜った名前です。

真言宗智山派

あと真言宗には智山派があります。智山派は根来寺の塔頭智積院の開創に始まります。智積院を智山といえます。真言宗中興の祖といわれる興教大師覚鑿（1095～1144年）が、大治5年（1130年）に高野山に創建した大伝法院でしたが、教義上の対立から覚鑿は高野山を去り、これを根来山に移して新義真言宗を打ち立てました。

南北朝時代にこの大伝法院の塔頭として真憲坊長盛が学問所として建立したのが智積院です。

根来寺は豊臣秀吉によって炎上しますが、智積院の住職であった玄宥は弟子をつれて寺を脱出し、高野山に逃れました。それから玄宥は再興運動を行い、徳川家康から寺を与えられて智積院の再興が出来ました。

今回は長徳寺住職・岡本教雄様に大変お世話になりました。



長徳寺 阿弥陀如来立像

（文・写真とも 中三川孝幸）

* 編集後記 *

2010年2月、講談社出身で『白門板橋』の編集長をしていた金子益朗さんが不帰の客となり、金子さんの前に編集長をしていた平山惟美さんが急きょ再登場した。その平山さんに頼まれて、私は編集を手伝い、いつの間にか10年の月日が流れた。

10年という月日は、いわゆるひと昔である。知らず知らずの内に10年が経過した。金子さんと一緒にパーで歌ったのは、それより更に前のことである。

私は中大を卒業してから、何一つ母校に貢献できなかった。そこで地域支部の広報誌の編集に携わり、少しでも母校への恩返しをしようと思分なりに頑張ってきたが、年を取り十分な取材ができなくなってきた。そろそろ後輩に編集を譲りたい。

金子さんは編集が本職であったし、平山さんは偉大な文化人で、現在でもお元気で今号にも名文を書かれている。

編集の手伝いを頼まれた時は、軽い気持ちで引き受けたが、後任にタスキを渡す今になって、受け継ぐ者が容易に見つからないことに困惑している。

どなたか、私の後を継いで、この小冊子の継承者になってくださる方はおりませんか。（伊藤 潤）